

SDGs ランキング

「環境エネルギーネットワーク 21」 主任研究員 岸本 哲郎

持続可能な開発目標 (SDGs)

最近 SDGs という言葉がテレビや新聞等でも良く目にすることがあります。SDGs とは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、産業革命以降急激に活発化した人間活動により、経済・社会の基盤である地球の持続可能性が危ぶまれていることに端を発します。1972年、マサチューセッツ工科大学のメドウズ教授などにより発表された「成長の限界」は、地球資源をふんだんに使いながら拡大してきた世界経済の成長はこのまま続くと 100 年以内に限界を迎える、という提言でした。SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。



図-1 SDGs の 17 の目標

それぞれの内容は

1 貧困をなくす

ここで定義される貧困とは、主に 1 日あたり 1.25 ドル未満で生活している人々を指します。SDGs の目指す貧困の撲滅は、貧困に苦しむ人々を男女や子供の区別なく、2030 年までに半減させることを目標として定めています。

2 飢餓をゼロに

飢餓に苦しむ人を例外なくゼロにするというのが第 2 の目標です。2030 年までに世界の生産性の向上を通じて各国の生産力を強化し、あらゆる人が 1 年にわたって継続的に十分な栄養が得られる環境を整えることを目指します。

3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる人が健康的な生活を享受でき、また十分な福祉を得られるような社会を目指すための理念です。2030年までにエイズやマラリア、結核、コロナなどの感染症を根絶することや、妊産婦の死亡率を減らすこと、また交通事故死やアルコール関連の疾患を減らすことを目標に掲げています。

4 質の高い教育をみんなに

第4の目標は教育格差の是正を目指すものです。全ての子供が、男女の区別なく包括的かつ公平な教育の機会を得られるように推進します。

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーとは、社会的な性差のことです。ジェンダー平等とは、主に女性が性別によって受ける社会的圧力を根絶し、性別によらない平等な社会を目指すのが、第5のアイコンが意味する目標です。

6 安全な水とトイレを世界中に

世界には水が安全に飲めない地域も存在します。第6の目標は全ての人が普遍的かつ公平に安全な飲料水を手に入れられる状態を目指す理念です。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

世界全体のエネルギー生産を効率化し、全ての人々が安価でかつ環境に優しいエネルギーを使用できることを目指します。途上国に対するインフラ投資や再生可能エネルギーの支援も、この理念の一部です。

8 働きがいも経済成長も

経済発展やGDPの成長を目指しつつ、人間らしい働き方を求めるのが第8の理念です。各国の状況に応じて経済発展を保ちながら、雇用を創出し、働きがいのある労働体制の仕組み作りを進めます。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

これは主にインフラ開発と技術革新の拡大を目指していくという目標です。持続可能な強靱なインフラを整備し、クリーンな技術を駆使しつつ、地球規模の発展を目指します。

10 人や国の不平等をなくそう

年齢や性別、宗教や国籍、人種による差別や不平等をなくすための理念です。また、賃金の格差を是正し、所得の低い層を押し上げることで、社会的な不平等の根絶を目指すための理念でもあり、移民問題に対しても一石を投じています。

- 11 住み続けられるまちづくりを  
包括的な都市化を促進し、公共交通機関の利便性やアクセスを向上させることを目指す理念です。スラムの改善、世界の自然遺産や文化遺産の保護強化なども含まれます。
- 12 作る責任、使う責任  
食料の廃棄を削減したり、貴重な天然資源を大切に使ったりなど、モノの生産と消費に関する取り決めです。持続可能なモノの消費と生産パターンの構築を目指します。
- 13 気候変動に具体的な対策を  
地球が起こる気候変動に対して、緊急的な対策を取ることが第 13 の目標です。各国が国の政策に気候変動対策を盛り込み、自然災害に強い社会体制の構築を目指します。
- 14 海の豊かさを守ろう  
海洋資源を確保し、海洋ゴミの削減や陸上活動による海の汚染を無くし、各国が平等に海洋資源を活用できる社会を実現することがこの理念の目標です。
- 15 陸の豊かさも守ろう  
海だけではなく、陸上生態系の保護や森林の管理も推進していかなければなりません。干ばつや砂漠化への対処など、陸上動物や陸上の自然を守る対策を盛り込みます。
- 16 平和と公正をすべての人に  
暴力や虐待、戦争を撲滅し、国際的な法の支配を促進するのが第 16 の目標です。汚職や賄賂を否定し、法律が正しく運用される社会の実現を目指します。
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう  
途上国と先進国、北半球と南半球など、世界が手を取り合って持続可能な開発目標を達成しようという取り組みです。グローバルな連携関係を築くことで、諸問題の解決へ向けてあらゆる取り組みを促進させます。

という 17 の高い理念のテーマが掲げられています。

国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN) は世界各国の SDGs の達成度を評価した「Sustainable Development Report」(持続可能な開発報告書) の 2023 年版を発表しました。  
表はそのランキングです

表-1 国別達成度ランキング

順位	国名
1	フィンランド
2	スウェーデン
3	デンマーク
4	ドイツ
5	オーストリア
6	フランス
7	ノルウェー
8	チェコ
9	ポーランド
10	エストニア
21	日本
39	アメリカ
49	ロシア
63	中国
112	インド

この評価はSDSNの主観が入っているので正確かどうかは評価が分かれると思いますが、参考にはなると思います。日本はこの評価では21位になっていますが、アメリカ、ロシア、中国、インドなどの大国の評価が非常に低くなっていることが分かります。

一方国内の各企業の活動が一般消費者にどのくらい認知・理解され、評価されているのかを数値化する『企業版SDGs調査2022』をブランド総合研究所が発表しています。業界別に売り上げ規模の大きな企業と、SDGsやESG（環境・社会・企業統治）に積極的に取り組んでいると思われる企業を中心に、同研究所が独自に選出したものです。この結果は消費者の特定な項目のアンケートによるイメージのランキングで、必ずしも実態と合っていないかもしれませんが、消費者が企業にどのようなイメージを持っているかの参考にはなると思います。

これらの消費者のイメージは経営戦略としても重要になっていると思われます。SDGsに積極的に取り組んでいることが消費者や取引先に伝わると、企業イメージがアップし売り上げや受注の増加も見込まれると考えられており、各企業は自社のイメージアップのために企業戦略の一環としてSDGs活動に積極的に取り組み始めています。

表-2 国内企業ランキング

順位	企業名	業種
1	トヨタ自動車	機械・金属
2	イオン	流通・飲食
3	ユニクロ	流通・飲食
4	日産自動車	機械・金属
5	サントリー	飲料・食品
6	パナソニック	電機・電子
7	スターバックス	流通・飲食
8	日本マクドナルド	流通・飲食
9	アサヒビール	飲料・食品
10	無印良品	飲料・食品
11	ヤクルト	飲料・食品
12	セブンイレブン	流通・飲食
13	花王	紙・化学・繊維
14	富士フイルム	紙・化学・繊維
15	カゴメ	飲料・食品
16	味の素	飲料・食品
17	日清食品	飲料・食品
18	ホンダ	機械・金属
19	ローソン	流通・飲食
20	伊藤園	飲料・食品

またこの SDGs の目標の第 13 番目に気候変動に関する目標が掲げられています。現在地球規模で気候変動によるとみられる異常気象が頻発していますが、気候変動のメカニズムはまだ科学的に解明されていないことが多く、現在その対策は人為的な二酸化炭素の排出量を減らすというものに絞られています。これらには根強い異論も多く、地球規模での気候変動を抑えるために人類の英知が試されています。